

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 元 年 11 月

事業所名 ミラクルキッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		利用児が心地よく安全に過ごせるように十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	3	1		より手厚い支援を行う目的で、看護師2人体制を考えている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4		段差解消や移動・動作が行いやすいような構造になっている。玄関がスロープになっており、室内も障害物がないよう気を付けている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		全職員で日々ミーティングを行い、話し合いをしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		保護者からの意見を参考にし、業務改善を図っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		ホームページ上で公開している。引き続き結果を公表していく。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4		外部からの意見を取り入れながら、業務が行いやすいように改善に取り組んでいる。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		毎月1回職員研修を実施している。また外部研修にも参加している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		定期的にあセスメントを実施してニーズから必要な課題を抽出し、目標を立ててプログラムの立案を行い、より良い支援を提供できるように計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3		利用児の特性やADL(日常生活活動)の状況を把握しやすいようにアセスメントシートを作成している。	

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	利用児が行事を通して様々な体験ができるように職員全員で提案・協議しプログラムの立案を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	外出等の様々な社会体験を実施する機会を設けている。	今後も固定化しないように、様々な活動プログラムの立案を行っていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	特に長期休暇中には社会体験を中心に外出している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	各利用児の状況に合わせて、個別や集団活動を取り入れ放課後等デイサービス計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	職員間のミーティングで日々確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	職員間のミーティングで日々確認を行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	療育・リハ、その他利用児の細かい変化や様子についての記録を行い、より良い支援を提供できるようにしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	6ヶ月以内にモニタリングを行い、計画の見直しを実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	出来るだけ多く体験できるように意識して実施している。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		児童発達支援管理責任者が主に積極的に参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3		保護者を通して把握している。また送迎時に学校の先生から子供の情報(学校での様子等)を聴取して情報共有を随時行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3		各利用児のフェイスシートに主治医と連絡先を記載しており、直ぐに連絡をとれる体制を整えている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3			必要に応じて行えるようにする。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1			現時点では事例はないが、今後、必要に応じて対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		必要に応じて助言や研修を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4			相談はしているが日程が合わないため、現時点では実現できていないが、今後検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4			日程が合わないため、現時点では実現できていないが、今後検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		事業所内や行事などで外出した際の利用児の様子について、保護者に適宜報告している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		必要に応じて行う。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		十分に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		必要に応じて行っている。	
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		保護者会は平成31年4月4日に実施。		

保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		苦情があった際には記録を残す等対応の体制を整備している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		ホームページに年間行事予定を公開する等で発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	4		漏洩しないように契約書に個人情報保護に関して十分に注意する旨を記載している。	今後も漏洩しないように注意する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		視覚的・聴覚的要素を取り入れたり利用児や保護者に細やかな配慮をしたり等、情報伝達や意思疎通を行いやすいように心掛けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		今後、検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4		事業所内の研修で対応の仕方等職員間で情報共有している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		定期的に避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		職員間で周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4		必要があればマニュアルの手順に従う。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		確認し、対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		ヒヤリハット・事故報告書を作成し、事業所内で共有している。	